

「大学生のためのお金の教室～投信をどこで買えばよいか分かりません・・・」

ファイナンシャルプランナー 江尻正幸

皆さん、こんにちは。ファイナンシャルプランナーの江尻正幸です。

年金不安や景気低迷などのニュースしか耳にしたことがないため、将来に備えて資産運用を真剣に考えている大学生の方が多いことを、私が講師を務めるセミナーを通じて実感しています。

そのような方の中には、投資信託による資産運用を検討している方も多くいらっしゃいます。

そして、いくつかのファンドの過去のパフォーマンス等を分析し、いざ購入しようとした段階で新たな問題に直面しています。

それは、「どこで買えばよいか」ということです。

今回は、この点について学びましょう。

【質問】

投資信託による運用を始めようと思い、あるファンドを購入することを決めました。

しかし、そのファンドはいくつかの金融機関で販売されていることがわかりました。

どの金融機関から購入しても同じなのでしょうか？

(金田さん・大学2年生・投資信託購入経験無し)

【回答】

どの金融機関から購入しても同じではありません。

各ファンドによって、販売会社の数だけでなく、購入時にその会社に対して支払う「手数料」も異なるのです。

例えば、「フィデリティ・日本成長株・ファンド」について見てみますと、フィデリティ証券を通して購入すると手数料は2.100%です。

しかし、多くのメガバンク・地方銀行では、それが3.150%に設定されて販売されています。

《ファンドの目論見書には以下のような記載がある》

【投資者が直接的に負担する費用】

購入時手数料 3.150%を上限として販売会社が定める。

—コラムの無断転写・転載などを禁じます。—

Copyright©2012 Skirr Japan Corporation. All Rights Reserved.

また、同じ販売会社だとしても、店頭で購入するか、それともインターネットで購入するかでその手数料に差を設けている場合もあります。

加えて、販売会社のキャンペーン等によって、購入時手数料が無料（ノーロード）である場合もあります。

同じファンドを買うならば、少しでもこのコストを低く抑えたいところです。

ですから、まずは金田さんが購入を考えているファンドの購入時手数料を、販売会社ごとに確認しましょう。

●知っておきたい“直販投信”

さて、ここまで銀行や証券会社といった金融機関を中心とした販売会社ありきで説明を進めてきました。

しかし、こういった販売会社を介さず、我々にファンドを直接販売している運用会社も存在しています。

「鎌倉投信」や「セゾン投信」など、その“直販投信”を実施している運用会社数自体はあまり多くありませんが、ノーロードを軸に長期的な運用を目指すファンドを販売しています。

また、“直販投信”を実施している会社の多くは、運用担当者等と直接交流できる場を多く提供しています。

もちろん、金田さんのような大学生も参加できることがほとんどです。

そこでは、各国経済の現状や投資環境などについても学べるが多いため、勉強のために一度参加してみても面白いでしょう。

※本コラムは投資を推奨するものではありません。投資は自己責任で行ってください。